



証券コード：3997

株式会社トレードワークス

2020年12月期 第3四半期

決算説明資料

2020年11月6日



■ 2020年12月期 第3四半期 業績サマリー

業績

売上高

1,310百万円

(前年同期比22.6%増)

営業利益

△ **84**百万円

(前年同期 △22百万円)

四半期純利益

△ **59**百万円

(前年同期 △14百万円)

ポイント

- コロナ禍において、新規営業活動のスピード鈍化が一部あるものの、既存案件の堅調な推移により、売上・利益ともに、社内計画通りに進捗
- ビジネスモデル改革のための戦略投資費用も安定化
- 第4Qも引き続き不透明な事業環境の中、コロナ禍におけるデメリットを少しでも抑え、期初計画の達成を目指す

■ 2020年12月期 第3四半期 業績ハイライト



売上は堅調に推移。期初計画達成に向けて進捗。

(単位：百万円)

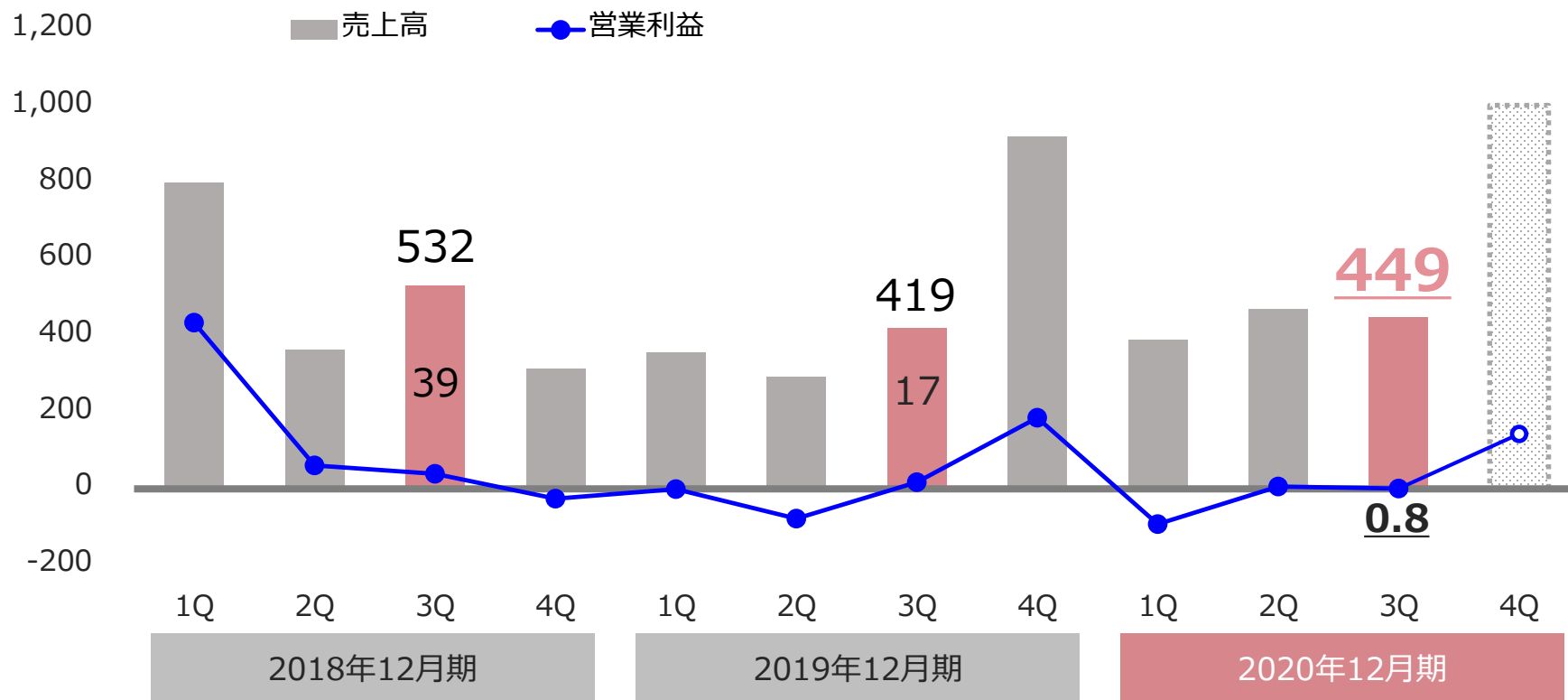
項目		2019.12期 3Q		2020.12期 3Q		増減額	前年 同期比
売上高		1,068		1,310		241	122.6%
原価	原価率	840	78.6%	1,088	83.0%	247	129.4%
売上総利益		228		221		▲6	97.3%
販管費	販管費率	290	27.1%	306	38.4%	16	105.5%
営業損失		▲62		▲84		▲22	
経常損失		▲61		▲84		▲22	
四半期純損失		▲45		▲59		▲14	

■ 売上高・営業利益（四半期推移）

第3Qまでの各四半期において、
前年同期を上回り進捗。

第3Qまでの累計では、前年同期比123%で推移

(単位：百万円)



■ 貸借対照表

(単位：百万円)

	2019.12期	2020.12期 3Q	増減額
流動資産	1,162	978	▲184
現金及び 預金	422	639	217
売掛金	688	139	▲549
固定資産	585	602	17
有形 固定資産	104	95	▲9
無形 固定資産	288	290	▲1
投資その他の 資産	192	216	24
資産合計	1,748	1,580	▲168

	2019.12期	2020.12期 3Q	増減額
流動負債	218	119	▲99
買掛金	99	73	▲26
未払法人税	38	1	▲37
固定負債	63	69	6
純資産合計	1,466	1,390	▲75
負債・純資産 合計	1,748	1,580	▲168

技術革新による業界の活性化が進む

IT投資需要の注目度アップ

- **フィンテックによる金融業界新規参入業者の増加**
海外からの参入も増え、国内既存サービスも活性化
- **5G通信の商用サービス国内4キャリアでスタート**
IoT、AI、VRなど新しいビジネスが本格的に始動
- **金融システムのセキュリティに関する事案の増加**
- **証券会社システム強化への機運の兆し**

課題



- 安全性、業務効率化への対応力
- プロジェクトマネジメント能力
- 新サービスの開発能力
- 新技術の取得、対応
- 優秀なエンジニアの確保、育成

■ 第3Qまでの実施事項

◆ プロジェクト管理を徹底

新型コロナ禍において、テレワークを含むニューノーマルに対応した働き方改革を実行



◆ 既存顧客への営業活動強化

対面営業が難しい反面、オンラインミーティングを活発にできる既存の金融関連企業に積極的な営業活動を展開



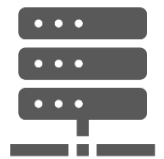
◆ 人材の育成

大型プロジェクトにも対応できる人材の育成に注力



◆ データセンター増強など戦略的投資を継続

ストック型ビジネスモデルへの転換を進める



◆ 新サービスへの取り組み

新型コロナ禍においても着実に進行



■ 通期計画達成のための取り組み

通期計画の達成

3Qまでの受注・開発はほぼ計画通りに進捗、当期は4Qに売上が集中するため、案件のマネジメント徹底により通期計画の達成を目指す。

利用型・ストック型ビジネスモデルへの転換

従来の「開発・フロー型」から「利用型・ストック型」へ
ビジネスモデルの転換を推進。

そのための戦略的投資を積極的に実施し、
早期のモデル転換と高収益体制の構築に取り組む。

人材育成に注力

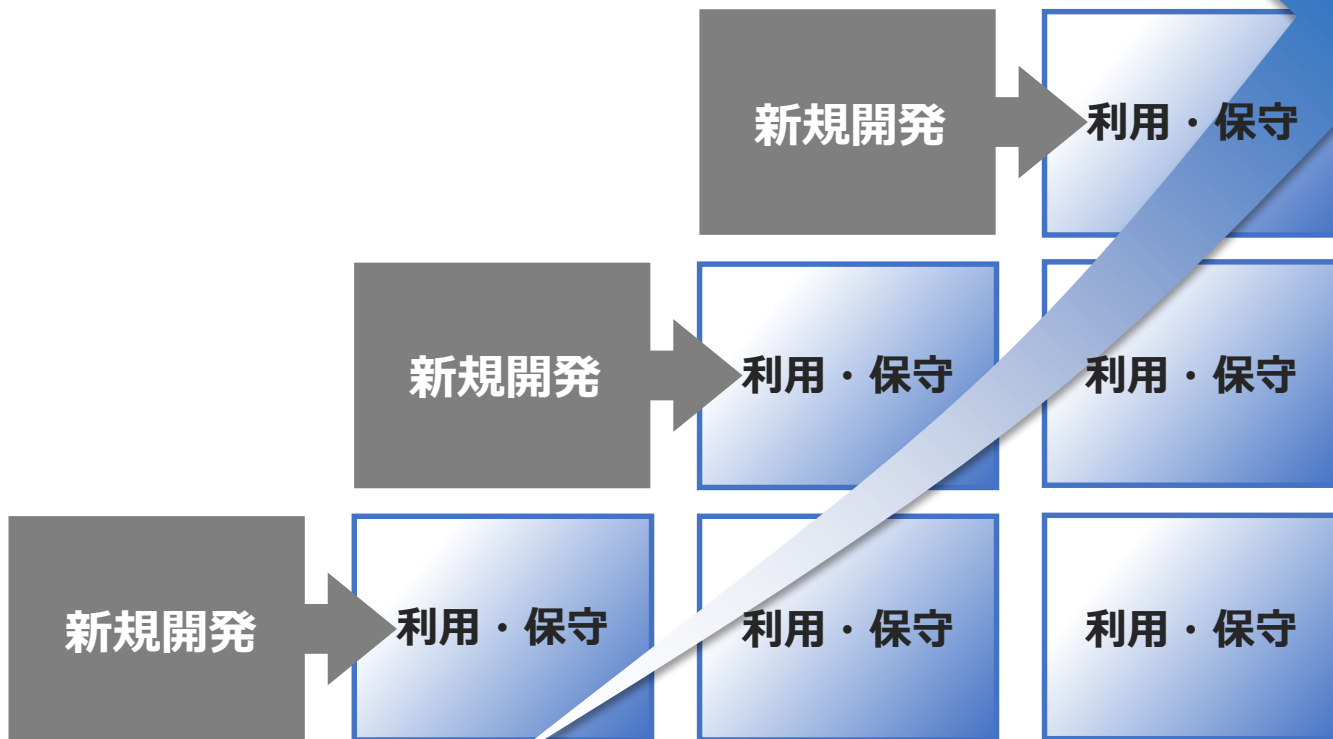
上期は国内及び海外の新卒採用5名を含む14名のエンジニア増員に成功。
様々なプロジェクトに対応できるよう人材育成に注力する。

ビジネスモデルの転換

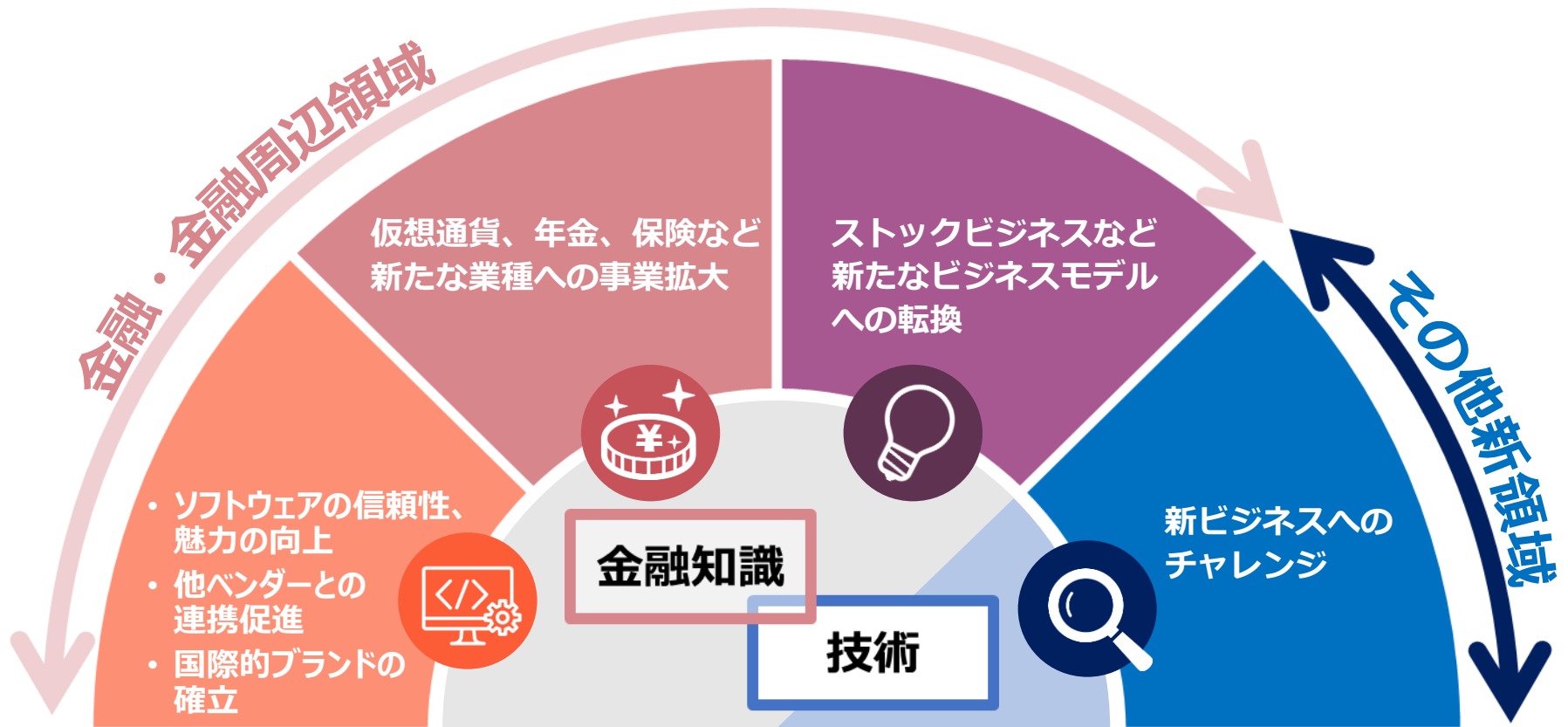
利用型・ストック型ビジネスモデル比率のUP

収益力拡大

ストック比率UP



新たなフィールドへの進出



技術と金融知識を持ち合わせた専門性の高い集団

■ 当期の重点施策

主な取り組み

- ✓ 収益性を高めるプロジェクトマネジメント
- ✓ 収益の源泉である金融知識を有するエンジニア、自社開発力を強化
- ✓ ビジネスモデル転換に関わる追加コストの早期収束
- ✓ データセンター強化
- ✓ AI、IoT技術の利用や、フィンテックによる新しいサービスの開発
- ✓ 働き方改革、人手不足解消など生産性向上策といった高需要な領域進出
- ✓ 人材獲得、金融知識・技術教育の充実、強化
- ✓ 顧客資産、技術情報連携体制の強化、確立

■ 2020年12月期 業績予想



**引き続き戦略投資を行いつつ、
確実な通期計画の達成を目指します。**

(単位：百万円)

項目	2018.12期	2019.12期	2020.12期 (予)	増減額	前期比
売上高	2,011	1,989	2,313	323	116.3%
営業利益	509	124	144	19	115.6%
経常利益	509	125	144	18	114.4%
当期純利益	362	89	100	10	111.9%

■ 株主還元について



**経営基盤の強化を最優先し、
将来の事業展開と内部留保とのバランスを考慮し、
利益配分を実施**

前期同様1株当たり5円の配当を予定

項目	2018.12期	2019.12期	2020.12期 (予)
配当金 (1株)	5円	5円	5円

參考資料

技術と金融知識を持ち合わせた 専門性の高い集団

技術



金融知識

- 最新テクノロジー
- AI
- RPA
- Fintech
- クラウド
- ビッグデータ
- バーチャルリアリティ
- 音声認識



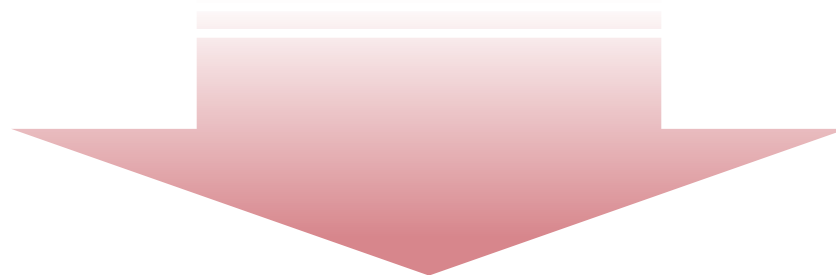
- 株式
- FX・CFD
- 仮想通貨
- 投資信託
- 保険
- 年金

■ 継続的な取り組み

ビジネスモデル改革を進め

- ① 予期せぬ不採算案件の発生
- ② 製品及びサービスへの品質・価格に対する顧客からの要請
- ③ 同業他社との競争激化

に準備、対処し収益性向上を図ります。



技術者育成 + 環境整備
全社横断 品質・生産性向上

■ 留意事項



当該資料は当社の会社内容を説明するために作成されたものであり、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。

また、本資料に記載されている将来の予測等に関する記述は、資料作成時点で入手している情報に基づき当社が判断したものであり、その情報の正確性を保証するものではありません。投資を行う際には、投資家ご自身の判断で行っていただきますようお願いいたします。

<本資料に関するお問い合わせ先>

株式会社トレードワークス
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-105
神保町三井ビルディング9F
TEL :03-5259-6611 FAX:03-5259-6612
<https://www.tworks.co.jp/>